

平成 30 年度 中国・樺太帰国者を知る集い

苦難の人生に涙する人も・・・知らないこと知った



3月2日「中国・樺太帰国者を知る集い」が、かでの2.7の大会議室にて開催され、一般市民75名、帰国者54名が参加しました。第一部では、まず残留の背景について学ぶため、満蒙開拓平和記念館制作のDVD「満蒙開拓の真実」が上映され、続いて厚生労働省の企画によるDVD「中国残留邦人等の証言映像～運命の軌跡～」から、当センターに通所する松江佳子さんの証言映像が上映されました。日本人であるために受けたという壮絶ないじめ、その苦難の人生に、参加者の多くが涙しました。また「自分が誰なのかどうしても知りたい」という言葉が、重みをもって響きました。

続くスピーチでは、帰国前の子供のころの思い出、日本と中国の漢字の意味の違い、日本人に助けもらった体験などを帰国者が発表しました。一般の参加者にとっては、日本と日本人に対する帰国者の視点を知ることのできる内容でした。帰国者自身の手書きの原稿がスクリーンに映し出され、日本語学習での努力も垣間見ることができました。原稿を見ずに発表した人もいました。樺太帰国者の横田レイ子さんは、自分たち残留邦人のことを知ってもらうことで、自治会長さんが優しい言葉をかけてくれるようになり、横田さんの会長さんに対する考えも変わったという、興味深い経験を発表しました。

休憩をはさんだ第二部では、帰国者が日本語教室・文化活動教室での成果を発表しました。ひとつひとつが工夫を凝らした発表でしたが、ロシアークラスによる劇「シンデレラ」は、コミカルな演技で会場の喝采を浴びました。

参加者からは「帰国者の前向きな努力に感動した」、「あまり知られていないことを知ることができてよかった」、「歴史の授業では数ページで終わってしまうが、その中には一人一人の人生が流れていることが、改めて心に迫った」という感想が寄せられました。

※DVD「中国残留邦人等の証言映像～運命の軌跡～」は当センターで貸し出しています。また厚生労働省ホームページでも公開（Youtube内のMHLWchannelで公開。中国残留邦人等証言映像で検索）しています。

春節

中国帰国者新年交流会 今年もにぎやか、あたたかな交流

一世、二世、ボランティア、みんなで作って、楽しい会



2月5日は春節、2月10日、東区民センターで中国帰国者新年交流会が開催されました。参加者数は100名で、久しぶりに顔を見せてくれた帰国者や、お孫さん、ひ孫さんを連れてきた帰国者もいて、会場はにぎやか、笑顔でいっぱいでした。



ステージは、揃いの衣装を身にまとった帰国者が、腰鼓を奏でる華やかなオープニングで始まり、帰国者の伊藤美代子さんと日本語の先生の司会進行で、歌や踊り、楽器の演奏などが次々と披露されました。出演者の熱演に大いに盛り上がりました。



また、今年もボランティアのみなさんや帰国者の有志が、会場の設営、お料理づくりや配膳と、交流会を支えてくれました。「自分たちの新年会だもの、みんなでつくって楽しい会にしなくちゃね」と、朝からお料理の腕を振るう一世。二世の協力者も今年は増えました。

テーブルの上には手作りの箸袋や、紙細工のかわいい人形。これは、当センター日本語教室に通う一世のみなさんが前々から作っていたもので、手づくり感あふれる新年交流会となりました。

生活学ぶ料理交流会

災害に備えて缶詰料理 学んで楽しむ



今年2回目の料理交流会が、3月19日東区民センター実習室で開かれました。帰国者38名にボランティアの人も加わって「栄養バランスのとれた食事づくり」を学び、交流しました。講師は前回と同じ管理栄養士の加藤由美子先生。メニューは「サバ缶カレー」、「もやしサラダ」、「わかめスープ」、「ヨーグルトパフェ」の四品。塩分やカロリーにも十分注意した健康メニューです。北海道胆振東部地震の余震もあったことから、災害に備えて蓄えておける缶詰の食材を使ったメニューを考えてくれました。

料理交流会は、先生が二品ずつ作り方を説明してから、グループに分かれて作りました。ひとつひとつの食材のもつ栄養分や、効果的な調理法の紹介も交えながら丁寧に説明してくれました。

カレーは、カレー粉を使うことでカロリーの高い市販のカレールーを少なくし、魚の臭みを消して甘みを出すためにレーズンを、パフェはヨーグルトを加えて生クリーム分量を減らし、ミカンの缶詰の汁にバナナを漬けて変色を防ぐなど、家庭で料理するときにも使えそうな工夫がたくさんありました。

最後はみんなでいっしょに試食。健康的なメニューなのがよかった、という感想もあれば、みんなでいっしょに作るのが楽しかったという声もあり、それぞれに学んで楽しむことができました。

稚内・地域生活
支援推進事業

体験して介護予防、認知症を学ぶ



2月28日 稚内市の日口友好会館で、認知症予防についての学習会が開かれました。「孤立しないための拠点づくり」の一環として、事業の委託団体であるNPO法人日本サハリン協会が企画しました。稚内市のまちづくり出前講座を活用し、「とりくもう介護予防～認知症編～」というテーマで生活福祉部の須藤誠也主事の話をお聞きしました。

介護が必要になる原因の中で一番多いのは、認知症。だから認知症予防が介護予防になるということで、認知症と物忘れの違い、認知症を防ぐために役に立つことなどを学びました。参加した樺太帰国者9名の中には、70歳を過ぎていて、親を介護している人などいて、それぞれが関心をもって聞いていました。講座の最後には認知症予防の体操をみんなで体験しました。

若い人が年々少なくなっているという稚内市。帰国者が置かれている状況を見ても、支援者が決して多いとは言えない中、皆が団結して助け合って生活しています。今後、高齢化が進むことを考えれば、現在築かれているこの関係がより重要なものとなっていきます。また、新たなつながりを見つけていくことも、これからの課題です。

旭川・おしゃべり交流会

春からの交流が楽しみ



おしゃべり交流会では、7年間にわたり、さまざまな活動に取り組んできました。

日本語会話とともに、社会を知り知識を広げる活動、帰国者の人生を知り、異文化を理解する活動…。また、みんなが集まる場所という大切な役割があり、帰国者のみなさんとボランティアのみなさんが交流を深めてきました。

2月28日の交流会では、春からの新たな活動について話し合いました。帰国者のみなさんからもボランティアのみなさんからも、見学会や料理、研修

など、やってみたい活動が次々に提案されました。話し合うことで日本語での会話も広がります。春からのおしゃべり交流会がどんな展開を見せるか楽しみです。

旭川市主催・介護保険学び予防体験の会 体動かし、大きな安心届ける

旭川市が主催する帰国者のための「介護保険と介護予防体操」の会が、3月22日に開かれました。参加したのは、帰国者のみなさんとおしゃべり交流会でおなじみのボランティアのみなさん。

長寿社会課保健師児玉華さんの介護保険の話の後、児玉さんのリードで介護予防体操、みなさん体を動かしながら笑顔いっぱい、お互い声をかけ合って楽しみながら学びました。旭川市の取り組みは、地域の帰国者に大きな安心を送り届けました。

新体制で新年度スタート！

4月から当センターは新しい所長を迎えました。新年度もどうぞよろしく
願います。

着任のごあいさつ

北海道中国帰国者支援・交流センター所長

富田 彰



みなさん、お元気で
過ごしてですか。4月から
センター所長に着任し
ました。センターの仕事
を担当するのは初めてで
すが、帰国者のみなさん

のお力になれるようがんばります。

一世のみなさんには、老後の生活や健康の心配事
が増えてきているのではないのでしょうか。健康のこ
とでは、介護のことも心配だと思えます。二、三世
のみなさんには、仕事や進路の不安があることと思
います。

帰国者のみなさんが悩みや心配事をたくさん抱え
ても、センターが拠り所となるように、センタ
ーでは様々な事業を行っています。みなさんが地
域で楽しく安心して生活できるように努めていきま
すので、ぜひ、センターの事業を利用してくださ
いね。

5月・6月・7月の行事

5月15日	介護予防サロン（手稲前田）
5月19日	介護予防サロン（もみじ台）
5月24日	健康運動教室
6月14日	健康運動教室
6月16日	介護予防サロン（もみじ台）
6月19日	介護予防サロン（手稲前田）
7月12日	健康運動教室
7月17日	介護予防サロン（手稲前田）
7月21日	介護予防サロン（もみじ台）

編集後記

「知る集い」が開催されるたびに、帰国者のことがあまり知られて
いないことを実感しますが、知ることが変化につながるということ
も、今回は感じる事ができました。（S）

退任のごあいさつ

北海道中国帰国者支援・交流センター前所長

齋藤 昇



この度、3月末日をもって当センターを退任とな
りましたので、一言ごあいさつ申し上げます。

私は、平成27年度（2015年）4月から四
年間センター勤務をさせていただきました。この間、
職員のみならず、先生並びに帰国者の皆様には大変
お世話になり感謝申し上げます。

私は、この四年間で様々な経験をさせていただ
き、皆様の様子を拝見してきました。樺太クリスマ
スパーティ、中国新年交流会における生き生きし
て、にこやかな様子。研修旅行での一生懸命な姿。
太極拳など文化活動教室での楽しそうな風景など、
すべてが印象的でした。帰国された皆様はこれまで
ご苦労もされたと思いますが、地域における安定し
た生活に向けて懸命に努力されてきたことと思
います。この4年間、センターに通っている皆様の元
気な姿を見て大変心強く思っています。

私は退任となりますが、引き続きセンターには
親身に相談に乗ってくれる職員・先生がいますので、
ひとりで悩まず気軽に相談してほしいと思
います。

今後とも帰国された方々の地域での生活がより安
定したものとなりますよう祈念申し上げます。四年
間ありがとうございました。